dCS

Scarlatti

Transport

Upsampling CD/SACD Transport

取扱説明書

株式会社太陽インターナショナル
〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイス 1F
Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778
<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）.....3

初めてのスカルラッティ・トランスポート.....4

梱包.....4
安全のための注意.....4
AC 電圧設定.....4
電源ケーブル.....4
メインコンディショナー.....4
設置.....5
使用可能ディスク.....5
使用不可能ディスク.....5
レーザー放射の危険について.....5
結露について.....5

セットアップガイド.....6

最初に.....6
STEP 1：デジタル出力の選択.....7
1394 インターフェイスケーブルの接続.....7
シングル AES、SPDIF の接続.....7
SDIF インターフェイスの接続.....7
STEP 2：Sync モードの選択.....8
DAC をマスターモードで使う.....8
マスタークロックを使用する.....9
STEP 3：ディスクの演奏.....10

フロントパネル.....11

リアパネル.....13

ソフトウェアーメニュー 14
メニューの使用 15
INFORMATION メニュー 16
TRANSPORT SETTINGS メニュー 16
DISPLAY SETTINGS メニュー 17
SIGNAL GENERATOR メニュー 17

メンテナンス 18
ヒューズの交換 18
ヒューズを交換する 18
保証 19
使用環境 19
ソフトウェア・アップデート 19

仕様 20

問い合わせ先 21

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。

⚠注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

［設置上のご注意］

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

［お手入れについて］

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのスカルラッティ・トランスポート

使用前に本項および「セットアップガイド」（P.6）をぜひお読みください。効率的にかつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

将来 dCS は必要に応じソフトウェアを更新しています。本機は CD-ROM によって、ご自身でアップデートできるように設計されております。ソフトウェアが更新されたときに、ご連絡いたしますので、保証登録は必ずなさってください。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

・スカルラッティ・トランスポート本体
・取扱説明書 / メニューガイド
・保証登録書
・AC パワーケーブル
・3/2 アダプター
・IEEE 1394 ケーブル
・BNC ケーブル
・ヒューズ（スペア）x 2
・NEVO S70 リモートコントロールハンドセット
・NEVO バッテリーチャージャー、AC アダプタ、マニュアル

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。

本機の保証カードは愛用者カードでの登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

AC 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷を本機に与えかねませんし、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

メインコンディショナー

メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意下さい。

設置

スカルラッティシリーズ機器は一台ずつラックで使用するように設計されております。ユニット本体を積み重ねての使用はなさらないようにしてください。しっかりした、振動しない棚板に載せ、他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

使用可能ディスク

次の商業的に製造された CD を再生することができます。

・12cm または 8cm の円形ディスク
・リニア PCM デジタルオーディオデータで録音されたディスク
・「レッドブック」規格に沿って製作され、左のロゴが付いたディスク

次の商業的に製造されたシングルレイヤー SACD もしくはハイブリッド SACD/CD を再生することができます。

・12cm または 8cm の円形ディスク
・SACD レイヤーが DSD デジタルオーディオデータで録音されたディスク
・「スカーレットブック」規格に沿って製作され、左のロゴが付いたディスク

CD-R

CD-RW

CD フォーマットのオーディオデータで記録された CD-R または CD-RW ディスクは再生できるかもしれませんが、不具合等起きても責任は負えませんのでご了承下さい。

使用不可能ディスク

下記のディスクを使用して不具合等起こった場合は責任を負えません。

・傷、汚れ、湾曲したディスク
・プリンタブルディスク、ラベルの張ったディスク
・DVD、CD-G、CD-EXTRA、PHOTO CD、CD-ROM、DVD-ROM
・「レッドブック」CD 標準に従わないコピー保護されたディスク（たとえば CCCD 等）は、正しく演奏しないか、まったく演奏しないかもしれません。

レーザー放射の危険について

d スカルラッティ・トランスポートは US FDA21CFR 項 J. をクリアするクラス1レーザー製品となっています。通常の使用においては、レーザー放射による危険はありません。

重要：本機は dCS の認定したサービスのみ修理、メンテナンスが許可されています。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開ける作業はしないでください。

結露について

本機が冷たくて、暖かい部屋に持ち込まれた場合、結露がおきます。結露がおきますと正常な動作をしません。結露がおきたと思われる場合は、室温の場所で 1 ～ 2 時間スタンバイにしておいてください。

セットアップガイド

基本的な動作のためのセットアップガイドです。

表示、フォントの意味

この取扱説明書で使用されている文字色は、下記の内容を示しています。

- 青：コントロールとコネクターについての記載
- ピンク：メニュー、またはセッティング
- グリーン：ディスプレイ表示

最初に

本項はメニュー構造詳細についてのチャートと、一般的なセットアップを説明します。

デジタルインターフェイスについては、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- AES/EBU インターフェイスには 110Ω、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- SPDF、ワードクロック、または SPDF BNC インターフェイスには 75Ω コアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。
- SPDF RCA インターフェイスには 75Ω コアキシャル RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。
- TOS リンクオプティカルインターフェイスには TOS リンク光ファイバーケーブルをご使用ください。
- IEEE1394 インターフェイスには IEEE1394 ケーブルをご使用ください。本機に付属しています。

まず使用システムの電源を入れます。

本機リアパネルの電源入力に付属の電源ケーブルを接続し、電源を入れる準備をします。

重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この場合の入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

Power ボタンを押すと約 30 秒間で本機はセルフチェックを行います。ディスプレイは次の順で表示されます。
Scarlatti 次に No Disk

もし本機が上記の表示がさない場合には、次の手順でリセットします。

Menu ボタンを一回押し、次に→ボタンを 1 度押します。続いて Menu ボタンをもう 1 度押すと、Transport Setting メニューが表示されます。←ボタンを何度か押し、Factory Reset メニューを呼び出します。Menu ボタンを押し数秒待ちますと、本機は自動的にリセットします。

STEP 1：デジタル出力の選択

CD、SACD どちらをお聴きになる場合でも 1394 インターフェースで DSD データ、CD フォーマットデータを送り出します。ほとんどの方は 1394 ケーブルのみで結線されますが、本来の CD データ（16 bit/44.1kS/s）を好まれる方もいらっしゃいます。

1394 インターフェイスケーブルの接続

・トランスポートの 1394 出力の一方と DAC の 1394 入力を結線します。同時にトランスポートの Wordclock Out と DAC の Wordclock In とを結線します。

・DAC の Input ボタンを押し、dCS STT または 1394 入力を選択します。

DAC は Wait..., No-WClk、または Search..., と表示することもあります。これはユニットがセッティングを行っていることを表しています。その後次の順に表示します (Clk OK), Locking, DSD。DAC の 1394 端子にもう1台の dCS トランスポートを接続している場合は、DAC の Input ボタンによってもう一方の 1394 入力を選択してください。

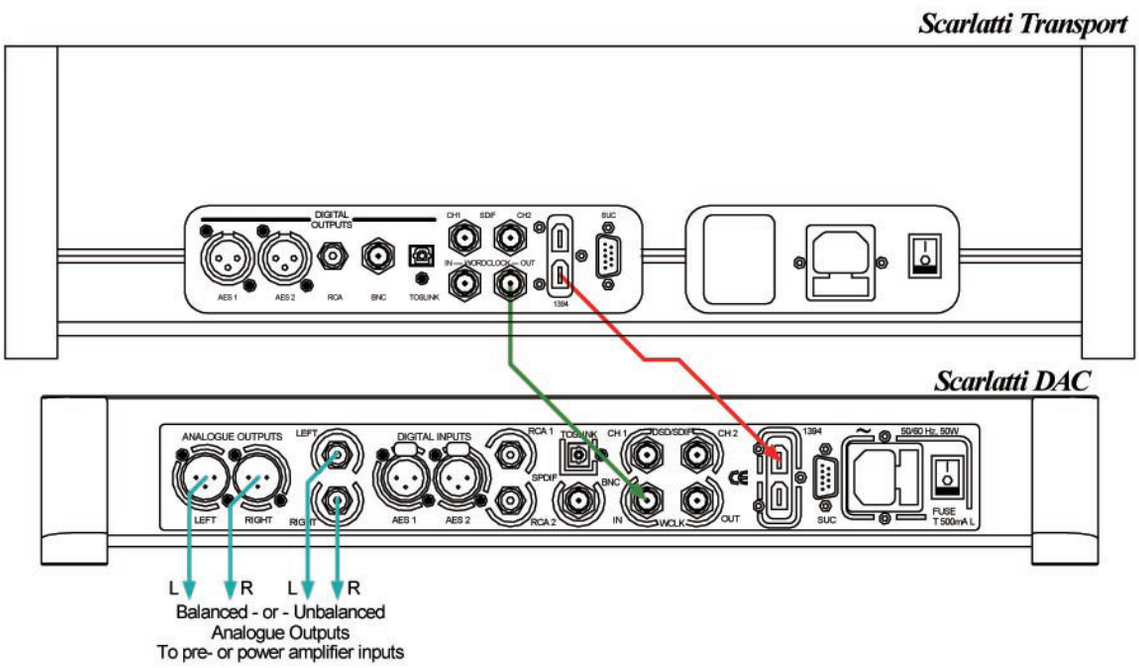


図 1：基本のセットアップ

シングル AES、SPDIF の接続

・トランスポートの出力から DAC の入力に結線します。

・DAC の Input ボタンを押し、出力とマッチする入力を選択します。AES1、AES2、RCA1、RCA2、Toslink、BNC のどれかです。

DAC は入力ソースとロックします。ディスプレイは (44.1k), Locking, 16/44.1 の順に表示します。

SDIF インターフェイスの接続

・トランスポートの CH1 出力を DAC の CH1 入力に、CH2 出力を DAC の CH2 入力に BNC ケーブル 2 本で結線します。トランスポートの Wordclock Out と DAC の WClk In とを BNC ケーブルで結線します。3 本なので、入出力が入れ違わないように確認してください。

・DAC Input ボタンを押し、SDIF をディスプレイに呼び出します。

DAC はトランスポートとロックされ、ディスプレイは (44.1k), Locking, 16/44.1 の順に表示します。

Step2 へ進む

STEP 2：Sync モードの選択

この段階でシステムはソースによって創り出されるクロックにロックしています。1394 または SDIF インターフェイスをご使用の場合には、DAC はトランスポートによって創り出されるワードクロックとロックしています。これは最も単純なセットアップですが、クロックジッターによってベストの音質が得られる状態ではありません。

DAC をマスターモードで使う

スカルラッティ・クロックをお持ちの場合は次のページに進んでください。スカルラッティ・DAC をマスターモードで使用し、トランスポートをスレーブモードにすれば、システムのジッターを低減できます。

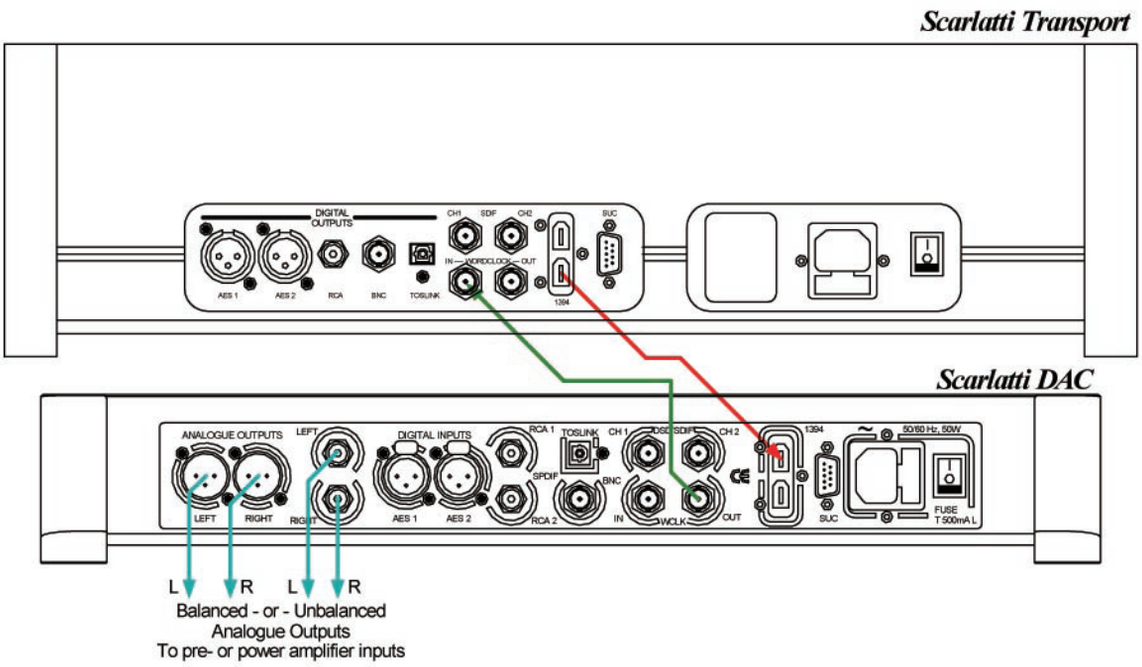


図 2：DAC をマスターモードで使う

・DAC の **Input** ボタンで必要な入力を呼び出します。
・DAC の **WordClock Out** とトランスポートの **WordClock In** とを接続します。
・ DAC の **Sync** ボタンを使用して DAC を **Master** モード（下記のマスターアイコンを参照）にします。システムは再ロックします。

マスタークロックを使用する

スカルラッティ・クロックを追加することによって更にシステムの再生能力は高まります。

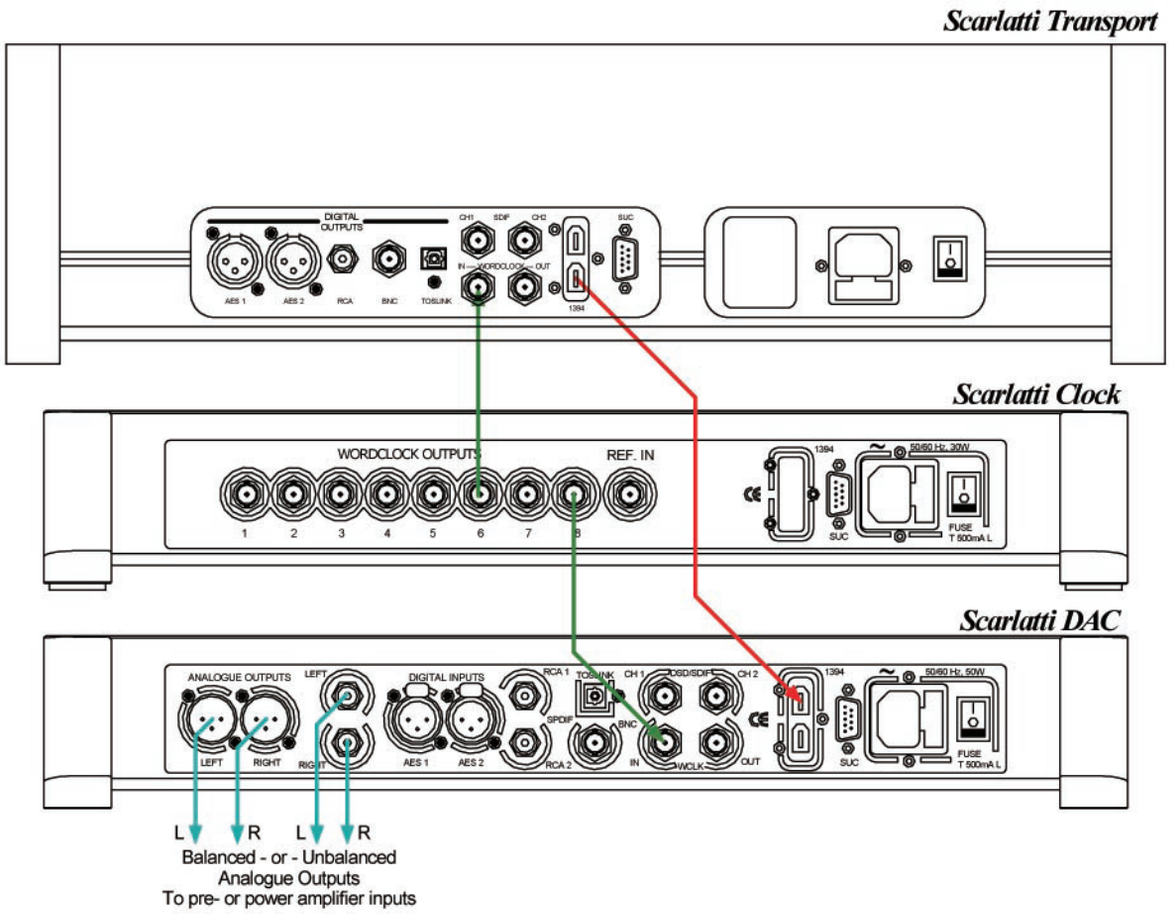


図 3：マスタークロックを使用する

- DAC の **Input** ボタンによって使用したい入力を選択します。
- クロックの **Wordclock Outputs** ８系統のいずれかと、トランスポート、DAC の **Wordclock Input** 端子を接続する。クロックの出力端子はどれも同じです。
- クロックの **Frequency**（周波数）ボタンによってクロック出力周波数を **44.1kHz** にセットします。
- DAC の **Sync** ボタンを使用して DAC を **WClk** モード（下記ワードクロックアイコンを参照）にセットし、システムが再ロックするのを待ちます。

マスタークロックをご使用になる際には、クロックの取扱説明書もご覧下さい。

Step3　へ進む

STEP 3：ディスクの演奏

・Stop/Eject ボタンを押す。

ディスプレイは OPEN と表示します。

・ラベルを上面にしてディスクをトレイに載せ、Stop/Eject ボタンを押す。

ディスプレイは CLOSE と表示し、次に LOADING と表示します。CD もしくは SACD とディスクが識別され、トラック数、全演奏時間と共にディスプレイに表示されます。本機はハイブリッドディスクでは SACD 面を優先的に演奏するようディフォルトセットされています。メニューまたはリモートによって CD 層を選択することも出来ます。

・Play ボタンを押します。ボリュームを適当なレベルにします。

全てのディスクは、ディスクタイプと残り時間がディスプレイに表示されます。

・Play/Pause ボタンを押し、ポーズにします。演奏に戻るにはもう一度このボタンを押します。
・FFW または FRV を押すと次の、または直前のトラックに飛びます。
・ FFW または FRV ボタンを押し続けることによって、2倍速でトラックを演奏します。それ以上の速度で進めるには、リモートの << または >> ボタンを押し、2倍、4倍、8倍を選択します。（詳しくはリモートマニュアルを参照ください。）
・Stop/Eject ボタンを押すことによって演奏を停止します。もう一度押すとトレイが開きます。

プロントリモートは他のコマンドも出来ます。例えば、トラック番号選択、リピートトラック、トラックのプログラミングなどです。

次のステップはたいへん大切な部分です。ゆったりくつろいで音楽を楽しんでください。

演奏が終わりましたら、システムをスリープモードにして準備態勢にしておくか、またはスイッチオフにします。スリープには Power ボタンを軽く押すことで、スイッチオフには Power ボタンをディスプレイに POWER OFF と表示されるまで押し続けることで、本機はその状態に入ります。

フロントパネル

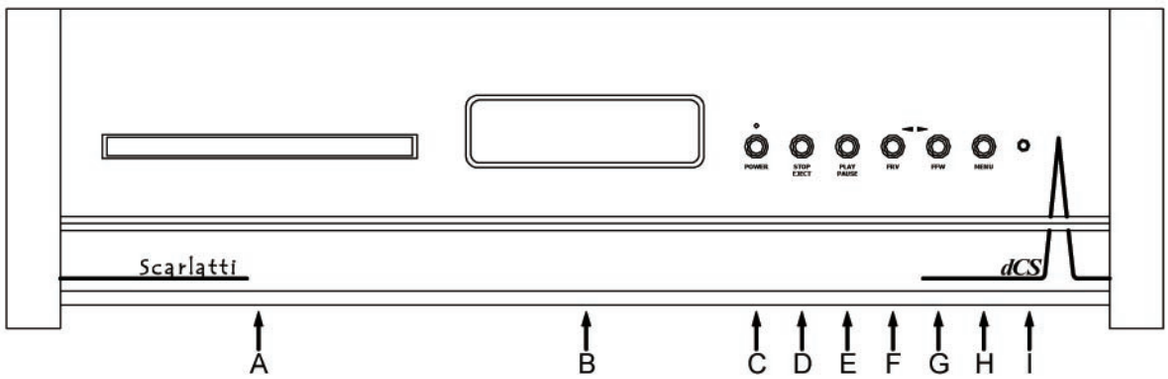


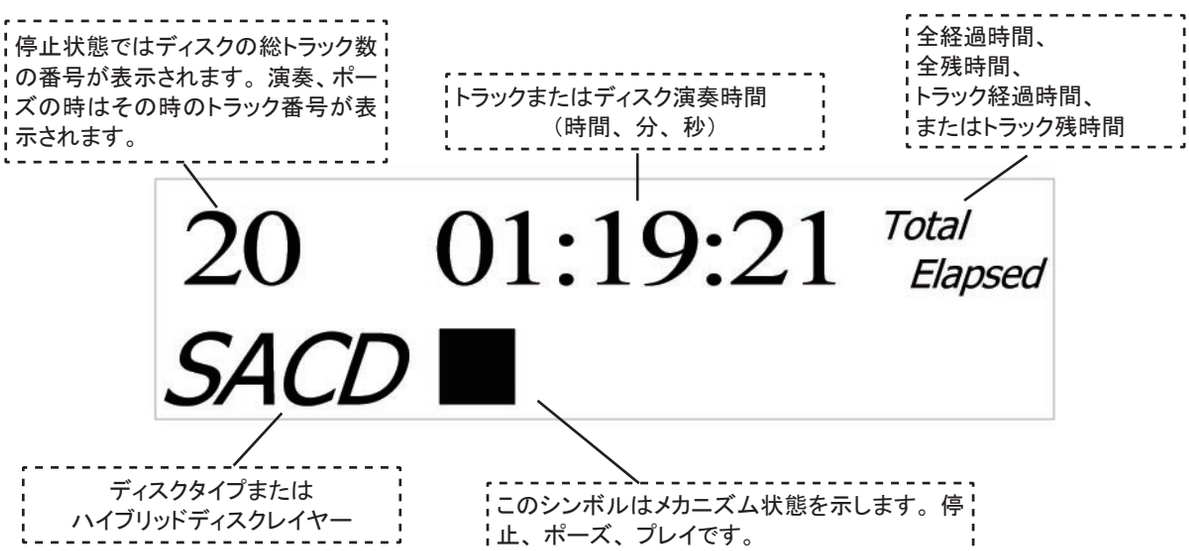
図 4：フロントパネル

(A) CD トレイ

CD,SACD ディスクを載せるトレイです。ディスクを上向きで中心部に載せます。

(B) ディスプレイ

通常の使用では、5つの部分に分かれます。



メニューディスプレイの詳細はメニューの項（P.14）をご参照ください。

(C) **POWER** ボタン

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを I にセットし、このボタンを押します。オンオフはリモートでは出来ません。

スリープモードにするには **POWER** ボタンを軽く押します。ディスプレイは消え、ボタンの上に位置する LED が点灯します。メカニズムは停止、本機は作動時に近い温度をキープします。通常の作動状態にするにはもう一度このボタンを押します。

スイッチオフにするには **POWER** ボタンをディスプレイが **POWER OFF** と表示するまで、約 5 秒押し続けます。

メニューが開いているときは、**POWER** ボタンによってメニューを閉じます。

(D) **STOP / EJECT** ボタン

STOP/EJECT ボタンによって演奏を止めることが出来ます。もう一度押しますと、CD トレイが開きます。更に押せば、CD トレイは閉まります。

(E) PLAY / PAUSE ボタン
ディスクが読み取られた後、PLAY/PAUSE ボタンによって演奏を開始します。演奏中に押せばポーズ状態になり、更に押すと演奏状態に戻ります。

(F) FRV(FAST REVERSE) ボタン
演奏中に押すと直前のトラックに戻ります。押し続けると現在のトラックに戻ります。(リモートコントロールはこの動作をよりすばやく行うことができます。)

メニューが開いていて、FRV ボタンが←ボタンに変わった場合、メニューのページ戻りになります。

(G) FFW (Fast ForWard) ボタン
次のトラックに進むか、押し続けると現在のトラックに残ります。(リモートコントロールはこの動作をよりすばやく行うことができます。)

メニューが開いていて、FFW ボタンが→ボタンに変わった場合、メニューのページ送りになります。

(H) MENU ボタン
このボタンを押すことによってメニューが開きます。メニューページを選択しセッティングを変更します。14 ページのメニューセクションをご参照ください。

(I) リモートコントロールレシーバー
リモートコントロールをレシーバーへ向けて操作してください。

リアパネル

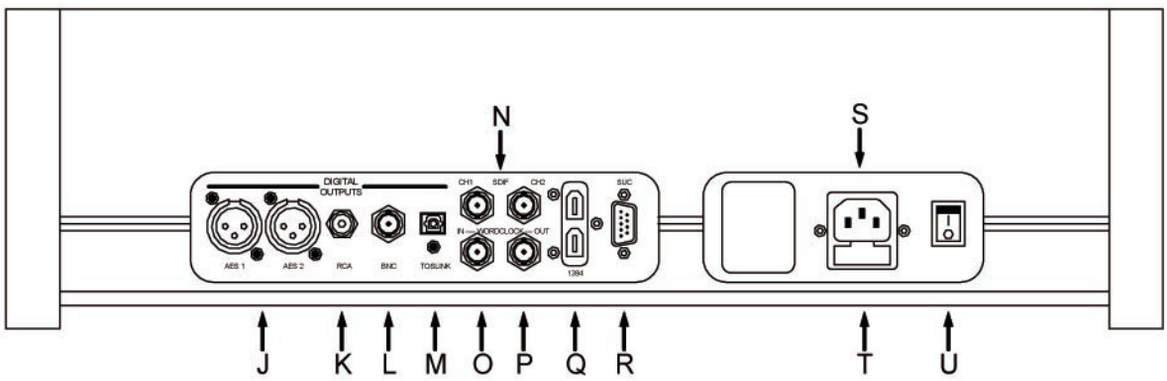


図 5：リアパネル

(J) AES デジタル出力

AES1、AES2 共全く同じです。SACD、CD ディスクに関わらず CD フォーマットデータ（16bit、44.1kS/s）の出力です。デュアル AES ペアとしては動作しません。

(K),(L),(M) SPDIF 出力

3つのコアキシャル SPDIF を装備しています。RCA(K), BNC(L) 光 SPDIF 出力の Toslink(M) がその出力端子です。Toslink をご使用の前にダストカバーキャップをとります。この出力端子は演奏するディスクにかかわらず CD フォーマットデータ（16bit、44.1kS/s）の出力です。

(N) SDIF デジタルインターフェイス

SDIF 出力端子は演奏するディスクにかかわらず CD フォーマットデータ（16bit、44.1kS/s）の出力です。CH1、CH2 と表記された2つのデータ出力があります。

(O),(P) Word Clock 入出力

(O) Wordclock IN（入力）はマスタークロックや DAC をマスターモードで使用した場合に標準の 44.1kHz ワードクロックを受け入れます。

(P) Wordclock OUT（出力）は 44.1kHz ワードクロックを出力します。

ワードクロックは同期（シンクロ）させるために使われ、デジタルデータは扱いません。

(Q) 1394 インターフェイス

IEEE1394 は DSD データのためのものです。1394 は多くのデジタルデータを扱えます。しかし、安定したクロックを送るのは得意ではありません。従って、別のワードクロック接続端子を使用します。2つの 1394 ポートは同じです。データ出力、またはループスルーで使用できます。2つの異なった DAC に同時に接続出来ます。一つの DAC に二本の 1394 で接続すると機能しませんのでご注意ください。

(R) SUS 端子

RS232 インターフェイス。主に検査のためのオートテストに使用します。

(S) 電源プラグ入力

IEC320 標準コネクター用端子です。

(T) 保護フューズ

(U) パワースイッチ

ソフトウェアーメニュー

メニューを進めるには **Step >** を押し、戻るには、**< Step** を押します。
メニューオプションを設定、変更するには **Select** を押します。

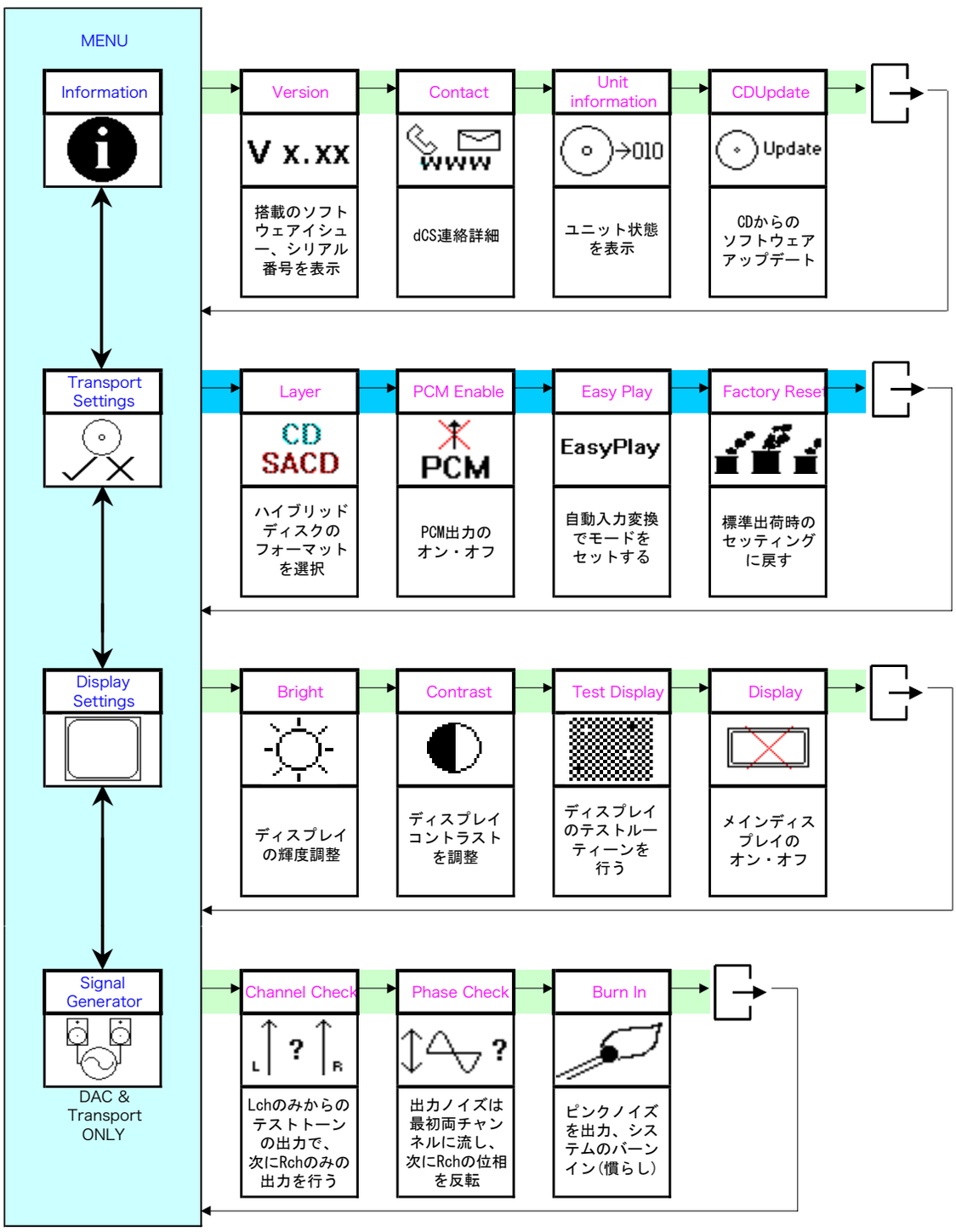


図 6：ファンクションメニューのフローチャート

メニューの使用

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューは 4 つのボタンによって操作します。

- MENU ボタンでメニューを開く、又はセッティングを選択
- →ボタンによってメニューのページめくり
- ←ボタンによってメニューのページ戻り
- POWER ボタンによってメニューを閉じる、または5秒でタイムアウト

リモートコントロールによってメニューにアクセスも出来ます。

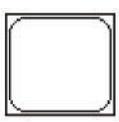
本機には4つのトップメニューがあります。

INFORMATION メニュー

ソフトウェアイシュー番号、シリアル番号、連絡詳細、ソフトウェアアップデート

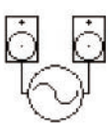
SETTING メニュー

異なるセッティングを行うメニューで、フロントパネルから直接アクセス出来ないセッティングを行えます。



DISPLAY SETTINGS メニュー

ディスプレイの調整



SIGNAL GENERATOR メニュー

テスト、セットアップ確認事項を含んでいます。

→ボタンによって希望のメニューに移動することが出来ます。希望のメニューに移動したら MENU ボタンを押します。表示されたメニューを選択し、更に→ボタンによってページを早送りできます。MENU を押すとそのページにおいてのセッティングを行えます。

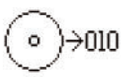
戻りのアイコン によって直前のメニューレベルに戻れます。

INFORMATION メニュー

V x.xx

Version（バージョン）ページでソフトウェアバージョン、フルシリアル番号を表示します。サービス、販売店にご連絡の時はこの番号をお知らせください。

Contact（連絡）ページ。dCS ウェブサイト URL、e メール、電話、ファックス番号を表示します。



Transport Information（トランスポート情報）ページで、ご使用機器の状態を表示します。

- Area : No disc/CD/SACD
- Sled : OK
- Clamp : OK
- Tray : OK
- PCM outputs : on/off
- Mech Version : 0x.xx（メカニズムバージョン番号）

→←ボタンによってリストをスクロール、MENU ボタンによって戻ります。

CD Update（CD アップデート）ページはソフトウェアが新しくなったときに使用します。

TRANSPORT SETTINGS メニュー

Layer（レイヤー）ページはハイブリッドディスクを演奏するときに CD、SACD レイヤーを選択します。選択、使用しているレイヤーは濃く、他のレイヤーはグレーで表示されます。レイヤーを変更するにはディスクを再読込するので Please wati... と表示されます。数秒お待ちください。

PCM Enable ページは PCM 出力のオン・オフを設定します。PCM 出力とは AES, RCA, BNC, Toslink, SDIF です。× は出力が無い状態です。PCM を使用するときにはオンにすることを忘れないようにしてください。

EasyPlay

ディスクのタイプを自動的に検出し、適切な DAC の入力を自動的に選択します。システムがパワーアップされているときに、トランスポートは CD, SACD 用にセットアップされた接続を検証します。

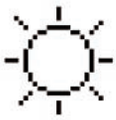
- Easy Play Off : 自動選択スイッチを動作停止にします。DAC の入力を演奏するディスクに合わせて選別しなければなりません。
- Easy Play Full : CD、SACD 演奏にかかわらず DAC とは 1394 で接続します。
- Easy Play SACD : SACD 演奏時に 1394、CD 演奏時に PCM 入力を自動選択します。

Easy Play が上記の通りに作動しない場合には、ご使用の機器の電源を一度切ってリセットしてください。これは、本機と DAC などのインターコネクトを変更するときにも必要です。

Factory Reset メニューは工場出荷時の標準セッティングにリセットします。

- Layer : SACD
- PCM Enable : On
- EasyPlay : Full
- Display : On
- Brightness : 最大輝度
- Contrast : 60%

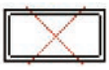
DISPLAY SETTINGS メニュー



Brightness（輝度）をお好みの輝度に設定します。

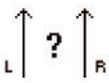
ディスプレイの Contrast（コントラスト）をお好みのレベルに設定します。

Display Test（ディスプレイ標準テスト）を行います。（メインディスプレイとインジケーターを点滅させる）



ディスプレイのオン・オフを行います。

SIGNAL GENERATOR メニュー



Channel Check：左右チャンネルの接続が正しいかチェックするために行います。ディスプレイが Left（左）と表示している間は左チャンネルのみ出力され、Right（右）と表示している間は右チャンネルのみ出力されます。

Phase Check：位相が正しく設定されているかチェックするために行います。In Phase（正相）と表示している間は両チャンネルから正相のノイズを発します。MENU ボタンを押すと右チャンネルのノイズが反転し逆相となります。その間ディスプレイは Out of Phase（逆相）と表示されます。最初のノイズは中央のイメージング。二回目は中央イメージングではありません。→または←ボタンを押してテストを終了しメニューに戻ります。

Burn In：システム全体のバーンイン（慣らし）を行うときに使用します。ディスプレイは Burn In Caution! Loud（大レベルでバーンイン中、注意）と表示し、次に混合ピンクノイズを発しますが、徐々に設定レベルに上がっていきます。MENU または→←ボタンを押すとバーンインは停止されます。ボリュームレベルが大きくならないように注意してください。慎重にレベル設定をしておかないとアンプやスピーカーに損傷を与えかねません。*この過程での損傷は保証の対象外となります。音圧レベルには充分にご注意ください。*

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換

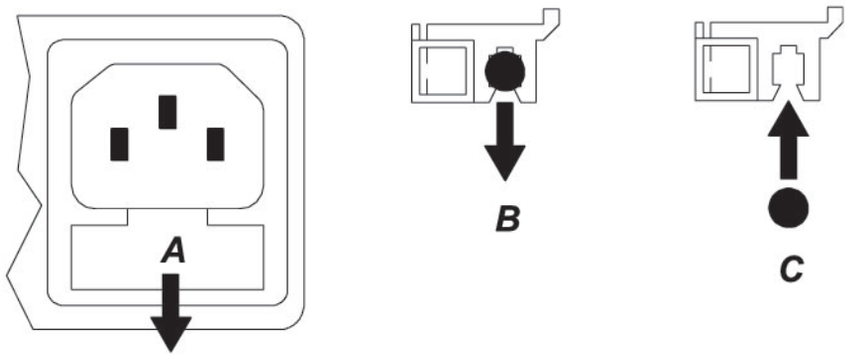


図7：ヒューズの交換

電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A ＴＬヒューズ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブ（A）を引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズ（B）を押し出し、新しいものに交換（C）してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

保証

当社はお買い上げ時より一年間、本機の不良または正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

以下の場合には保証が適用されませんので、ご注意ください。

・いかなる場合でも本機が誤って使用された場合。
・dCS、当社以外の手によって改造や修理が行われた場合。
・マニュアルの使用環境に従っての使用がなされていない場合。
・グランド電源を使用しない場合。
・不適切な梱包によって返送された場合。

問題が発生した場合にはモデル名、フルシリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題点の出来るだけ詳しい内容を販売店、または当社にお知らせください。修理のためご返送いただく場合には、オリジナルの梱包が安全ですので、梱包材はお手元に保管ください。梱包材が無い場合には有償でお貸し出しいたします。

使用環境

・リアパネルに表示してある電圧（100v）の ±10%。
・交流電源 49 ～ 62 サイクル
・使用温度　0℃～ 40℃
・以下に述べる機器近辺に設置しないこと：暖房機、空気ダクト、パワーアンプ、直射日光
・ご心配の点があれば簡単なテストとして、本機は人間が快適な環境であればまず間違いなく動作します。

ソフトウェア・アップデート

dCS の製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートのサービスを行っております。
ソフトウェア更新の際にはご登録いただいたユーザーの方へ郵送にてご案内させていただいておりますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願いいたします。
ソフトウェア・アップデートについてご不明な点がございましたら、弊社までお問い合せください。

仕様

ドライブメカニズム	デュアルレーザー、SACD/CD メカニズム
ローディング方式	フロント・ローディング
デジタル入力	AES/EBU（XLR）1 系統 SPDIF（RCA）1 系統
デジタル出力	IEEE1394 2 系統 AES/EBU（XLR）2 系統 SPDIF（RCA）1 系統 SPDIF（BNC）1 系統 SPDIF（Toslink）1 系統 SDIF-2（BNC×2）1 系統
ワードクロック入力	BNC 1 系統
ワードクロック出力	BNC 1 系統 マスターモードに設定時、44.1kHz クロックをクリスタル オシレーターから ±10ppm の精度で（温度補正無し）出力 この精度は通常数年間安定（但し数年の保証は対象外）
電源電圧	100V 50/60Hz
最大外形寸法	W 510 × H 135 × D 425 mm
重量	19.6kg

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9　日本橋グレイス 1F

TEL :　03-6225-2777（代表）

　　03-6225-2779（サービス課）

FAX :　03-6225-2778

ホームページ :　http://www.taiyo-international.com

2010.10.1